

～ 第6次豊川市総合計画策定における視点～

少子高齢化を伴う人口減少への対応を強く意識して計画づくりを進めます！

1 趣旨

本市の人口は、平成20年12月の183,259人をピークに減少傾向にあり、少子高齢化も進行しています。

少子高齢化を伴う人口減少は、地域の活力や経済に与える影響が大きいことから、今後のまちづくりにおいて大きな問題となります。

住みよさを実感でき、いっそう活気があるまちを目指して、本市の持続的な発展を支えていくためには、人口減少を抑制するために住み続ける人を増やす「定住促進」や、地域の活力を増進するために来訪者を増やす「交流促進」が重要と考えます。

第6次豊川市総合計画の策定にあたっては、少子高齢化を伴う人口減少への対応を強く意識して先を見据える視点に立ち、多くの人に「住み続けたい」、「訪れたい」と思ってもらえるようなまちづくりのため、「定住促進」や「交流促進」にインパクトを与える施策を明確にしなが、計画づくりを進めるものです。

2 視点としての捉え方

(1) 市民参画

市民参画の取組みとして実施する「団体アンケート」、「まちづくり市民ヒアリング」、「まちづくり中学生会議」、「総合計画審議会」において、多くの人に「住み続けたい」、「訪れたい」と思ってもらえるようなまちづくりに必要な取組みについて、意見をうかがいます。

(2) 策定会議

策定会議が行う基本構想及び基本計画の原案作成については、市民参画の取組みにより得た意見を踏まえ、「定住促進」や「交流促進」に寄与する取組みを明確にしなが、進めることとします。

3 少子高齢化を伴う人口減少への対応イメージ

